

# JICA 中部 来館者 100 万人達成セレモニー

令和 4 年 10 月 14 日(金)

ささしま周辺はライブさながらに活気づいていた。盛り上がっていた。そう、JICA 中部の来館者 100 万人達成セレモニーが開催され、本校がその 100 万人目として招待されたのである。5 年前、愛知県高等学校国際教育研究協議会 (AKK) 会長校を引き受けたことを契機に、JICA 中部とは出前授業の実施やイベントへの参加など相互交流を重ねてきた。また、本校の新規バンコク研修の立案では貴重なアドバイスをいただくこともあった。そして今年 7 月 8 日に実施した JICA パキスタン事務所と本校のオンライン交流 (Zoom) の際には、特別にホスト役を引き受けていただくなど緊密な連携を続けてきている。

さて、セレモニーは次のように進められた。案内役は協力隊経験をもつ後藤様と小倉様。それぞれ赤を基調としたエジプトの民族衣装と白のヨルダンの民族衣装 (ディシュダーシュ) を身にまとう。二人並べば「紅白」となり、始まる前から祝典モードだ。本校生徒のテンションもいやが上にも高くなる。会場に入れば 100 万人達成を祝う万雷の拍手で迎えられ、秋山様の司会でセレモニーが始まる。まずは小森所長のご挨拶があり、次はくす玉割りへ。両脇には小森所長と吉田様、その隣には本校の守屋凜 (モリヤ リン) さんと巢立大貴 (スダテ ダイキ) くんがくす玉のひもを両手でギュッと握る。するとカウントダウンの大きな掛け声。「5、4、・・・」周りも負けじと大きな声を出す。「3、2、1、それっ！」ポンツと弾ける音とともに飛び出す紅白のテープ。そして真ん中にはお祝いのメッセージ。くす玉割りというのは、その場にいる人たちみんなを楽しい気持ちにさせてくれる。続いて感謝状を福留そら (フクドメ ソラ) さんが受け取り、お礼を述べる。「ここ JICA 中部は開館して約 10 年が経過し、本日私たちが荣誉ある 100 万人目となり、皆さんから祝福されとても嬉しく思います。さて、次の 10 年後の 200 万人目には、今度は私たちが JICA で何らかの仕事に携わりお祝いする側に立ちたいな、と思います。ありがとうございました！」その後は全員で記念撮影となる。

ここでセレモニーは終了し、次の訪問プログラム「南西アジア展」見学に移ろうとすると、津島高校側から声上がる。「きょうは、本校がたまたま 100 万人達成のイベントというハレの舞台に上がる場をいただいたが、こうした大きなイベントを企画し運営するには並々ならぬご苦労がある。そうした一つ一つの地道な積み重ねがあってこそ、こうしたハレの舞台がある。その計画と準備に多くの時間と労力を割いてくださった JICA 中部の方々にお礼の意味を込めて拍手をしよう」と。ひときわ大きな拍手がわき起こった。

津島高校一行は、2 階で南西アジアの国々の現状と課題を理解し 3 階に。その屋上庭園ではエコをテーマにした取組を 4 つ探すことになる。その後 1 階に下り SDGs の取組の概要を学習。訪問プログラムの最後に後藤様から、アラビア語がびっしり書かれたノートを見せてもらう。派遣時に現地の人と話すために作成したという。「アラビア語で周りの人とたくさん意思疎通したいのでたくさん覚えた。少しのアラビア語を覚えればそれでいいという人もいるが、自分がその国を離れるとき、たくさんお世話になった人々には、自分の中のたくさんの感謝の気持ちをアラビア語で表現したい」現地の方は、現地のことばで話してくれる人を求めているのである。

